

学校歯科健診へ参加する 研修歯科医

徳島大学病院卒後臨床研修センター
副センター長(歯科研修担当)
河野 文昭 かわの ふみあき

大学の重要な使命に地域医療の現場で活躍する医師・歯科医師を養成することがあります。医師は平成17年度から、歯科医師は平成18年度から卒直後の医師・歯科医師の臨床技能の修練のために臨床研修制度がスタートしました。徳島大学病院歯科診療部門では、四国で唯一の歯学部附属した病院であることから、徳島県出身者ばかりでなく、四国四県および関西出身の研修歯科医が日々研修に励んでおります。研修歯科医の多くは、将来、開業医として地域歯科医療を担うことから、地域医療の現状を卒業1年目に体験し、その重要性を理解しておかなければなりません。そこで、徳島大学病院の歯科医師臨床研修プログラムでは、徳島県歯科医師会との協力を得て、口腔保健センターを核として臨床研修歯科医の学校歯科健診への帯同をお願いしています。学校歯科健診は、健康の保持増進を目的とした健康状態

学校歯科検診



マイ・ブック「名著紹介」 形に関わることを 可能な限り網羅

本書「形の科学百科事典」の刊行構想は形の科学会の中で1998年ごろから議論されていきました。しかし「形」というとりとめのないテーマだけに、どのようなものを対象とするかを巡って議論を繰り返して、ようやく2004年に刊行にこぎ着けました。形の科学会は2つの研究分野(医学・生物学と数学・物理学)が合流して設立されました。人体など立体的な構造について、その断面から様々な方法で計測し3次元量を計測するステレオロジー、河川や樹木などの枝分かれの法則性から真理を読み解くフラクタルなど色々な領域の研究者が集まって自由に議論を戦わせています。

『形の科学百科事典 ～形の科学会編～』

出版社: 朝倉書店
発刊年: 2004年

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
機能解剖学分野

福井 義浩 ふくい よしひろ



もいるからこれまで企画が成功しなかったようです。本書は、第59回毎日新聞出版文化賞(企画部門)を2005年に受賞しました。

自然が示す様々な形を科学の面から解析する試みの現在における集大成です。内容は、人体、動植物、物理現象、数学での形、工学での応用まで、形に関わることを可能な限り網羅しています。医学、生物学、物理学、数学、鉱物学、天体学、経済学、建築学、都市工学、流体力学、美学、デザイン、音楽などの専門家が各項目を記載しています。

とくtalkへのご意見

- 徳島大学の広報は数種あると思います。その中で「とくtalk」が他とどのような点で異なるのかが主張されていないような気がします。
- 他の方の広報も同じような感じがします。
- 制定された「編集基本方針」に従い、他の広報誌にはない特色をもった広報誌をつくる努力を重ねていきます。

参考:徳大広報編集基本方針

- ① 徳島大学の学生及び教職員相互の交流と理解を深める広報誌とする。
- ② 徳島大学の教職員OB、学生保護者、卒業生へ広く情報を提供する広報誌とする。
- ③ 徳島大学と地域社会との結びつきを深める広報誌とする。

- ④ 国際社会への展望を持ち、世界とのつながりのある広報誌とする。
- ⑤ 広く学内外の声を取り入れ、読みやすく親しみのもてる広報誌とする。

サイエンスの美しさを伝えたい



大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 機能分子合成薬学分野
大高 章 おおたか あきら

授業に際して心がけていることは、明確な言葉、はっきりとした口調で伝えること。教科書と板書だけですが、

「自分の学生時代を振り返り、学生の目線に立って内容を考えています。時には教科書から離れたことも交えながら、興味を持てるように進めていくようにしています」

そのためには自分自身が広く知識を持てるように勉強を欠かしません。

そんな大高先生の授業の進め方のベースとなっているのが、高校時代の物理の先生の授業との出会いです。「テンポの良い話し方で、教科書に

書かれていないことや、高校のレベルを超えたことまでもわかりやすく楽しく教えてくれ、引き込まれました。終わればノートが何ページもびっしりで、授業が短く感じられ、あっという間に終わっているんです。将来もし自分も教える立場になったら、その先生のようにになりたいと思いましたね」

また授業を受けながら、サイエンスは芸術であると感じたそうです。21世紀に入って、テクノロジーが加速度的な進歩を見せる中、人類は宇宙の謎、生命の神秘に近づきつつあり、科学は宗教や哲学とクロスオーバーしながら、精神世界を模索する時代



に向かうのかもしれない。ご両親が薬剤師で薬局を経営されていることから京都大学の薬学部へ。そこで有機化学の研究に取り組み、サイエンスの美しさをさらに認識しました。この思いを学生にも伝え、サイエンスにもっと深く興味を持ってもらいたい、というのが先生の願いです。

大高先生の講義は「基礎有機化学2(1年生)」「生体分子の有機化学(2年生)」「医薬品開発論2(3年生)」で、後期から始まります。

特集「春です ようこそ徳大へ」を読んで



- 新入生にターゲットを絞った特集としては、思い切った企画であり、新入生には好評だったのではないかと思います。温かく歓迎する雰囲気を感じられて好感がもてました。
- 「楽しんでみませんか?身近な徳島」は出色でした。
- 観光案内のようである。大学とは何か、学長と副学長の述べていらっしゃる内容を何度でも取り上げて説明、討論して欲しい。
- (一部略) 見出しの用語の「知識基盤社会」は中教審で示された言葉で、新入生に学習スタイルを問う記事に、この意味や特長をもっと詳しく述べられても良かったのではないのでしょうか。

読者の声

